



## 2024年度 地域研究科 開講日程

回	月日	B・C 会議室		レセプションホール		
		時間帯	13:15~14:45	15:00~16:30	13:30~14:55	15:05~16:30
1	4月11日	開講式 講義01 村田武一郎学長 「地域P&C論」「現地実習にあたって」		PJ発表会 (進捗状況・今期活動予定)		
2	4月25日	講義02 村田武一郎学長 「地域づくり企画・計画の方法」		GW&交流会		
3	5月16日	講義03 木村衛先生 「明日香村における地域づくりと住民の参画」		GW		
4	5月30日	講義04 神剛司先生 「プレゼンテーション手法・技術(基礎編)」		GW		
5	6月13日	講義05 村田武一郎学長 「うまい地域を訪ねてみよう(発展のポイント)」		GW		
6	6月27日	講義06 兼村美徳先生 「ものづくりコトづくりから関係づくり」		GW		
7	7月11日	講義07 村田武一郎学長「事業計画をつくろう」		GW		
8	7月25日	講義08 原田弘之先生「農村地域における町民 総出による地域再生の大実験－兵庫県神河町 の39集落の取組み－」		GW		
9	9月05日				公開教養講座①	公開教養講座②
10	9月12日	PJ発表会(各PJの中間報告)		シンポジウム開催方針		
11	9月19日				公開教養講座③	公開教養講座④
12	9月26日				公開教養講座⑤	公開教養講座⑥
13	10月03日	講義09 神剛司先生 「プレゼンテーション手法・技術(応用編)」		GW		
14	10月10日				公開教養講座⑦	公開教養講座⑧
15	10月24日	講義10 野口隆先生「地域資源の発見と活用」		シンポジウム実施・PR計画		
16	11月07日				公開教養講座⑨	公開教養講座⑩
17	11月14日				公開教養講座⑪	公開教養講座⑫
18	11月21日				公開教養講座(予備)	公開教養講座(予備)
19	11月28日	受講生話題提供①②		GW		
20	12月05日	受講生話題提供③④		GW		
21	12月19日	受講生話題提供⑤⑥		GW&交流会		
22	1月09日	PJ発表会(地域づくりシンポジウム発表内容)		GW		
23	1月23日	地域づくりシンポジウム内容最終確認		シンポ発表リハーサル		
24	2月06日				地域づくりシンポジウム (会場確保 9:00~17:00)	
25	2月27日	講義11 村田武一郎学長「講義まとめ」		来期へ向けての振り返り		

※1) 受講料は、新受講生 51,000 円(地域研究科プログラム+公開教養講座)、2 年次生以上 36,000 円(同左)です。

なお、交流会は、受講料とは別に参加費が必要です。

※2) 地域研究科の基本プログラムは、「講義」「グループワーク」「現地実習」の 3 本柱です。

※3) GW: グループワーク

※4) 現地実習は、PJ チームごとに、訪問先と調整して実施します(上記日程以外の日程にて行われます)。

※5) 活動成果は、2025 年 2 月 6 日の地域づくりシンポジウムにて発表します。

※6) 上記プログラム修了者には、一般社団法人地域づくり支援機構の地域 P&C 認定試験受験資格が与えられます。

## 講義概要

---

### 講義 01 地域 P&C 論 現地実習にあたって

<地域 P&C 論> 地域づくり概論 / 地域づくり事例 / 地域 P&C (プランナー・コーディネータ) の役割  
<現地実習にあたって> カリキュラム体系の確認 / 現地実習にあたっての注意事項 / 実習 (グループワーク) 提案内容の紹介 & 実習グループの決定

### 講義 02 地域づくり企画・計画の方法

企画・計画のステージと思考プロセス / 地域発展構想の作成にあたって (A. 地域発展構想の基本的な構造とプロジェクト提案の位置づけ、B. 地域発展構想の例ー特産品を活用した地域活力づくり、C. 地域発展構想とプロジェクト提案の例ー生駒地域産業ビジョン、D. 助成金申請書の例ー奈良県地域貢献活動助成事業申請書) / 数値目標の重要性

### 講義 03 明日香村における地域づくりと住民の参画

明日香村における農業振興や景観保全活動を生かした地域活性化の取り組み事例とその成果を紹介しながら、住民のやる気を引き出して効果を上げるための支援のあり方や留意点等について受講者の理解を深める。

### 講義 04 プレゼンテーション手法・技術(基礎編)

プレゼンテーションの種類、定義、型、重要なポイントなど基本的な内容を学ぶ。

### 講義 05 うまい地域を訪ねてみよう(発展のポイント)

“食”に対する関心、各地域の“食文化・食材”への関心の高まりとともに、今や、私たちには、“食を介しての交流”が不可欠となっている。地域の“食文化・食材”にこだわった“もてなし”と“交流”が地域活力の醸成を大きく左右する。

### 講義 06 ものづくりコトづくりから関係づくり

観光客を中心とした交流人口への期待から、地域に関心を持って関わっていきたい関係人口を増やそうという動きが出てきている。地域のどんなことに関わっていききたいと思ってくれるのであろうか。また、迎える側の地域としては、どんな魅力や体制を意識していなければならないかなど、掘り下げて考えてみる必要がある。関係先のターゲットとマーケットセグメンテーションのとらえ方を学ぶ。

### 講義 07 事業計画をつくろう

事業計画なしに企画からいきなり実行へと進み、混乱に陥る例や失敗してしまう例が多い。事業計画を十分に練り上げることが重要であり、そのポイントを解説する。

### 講義 08 農村地域における町民総出による地域再生の大実験ー兵庫県神河町の 39 集落の取り組みー

町の合併により、行政と住民との距離が離れ、そして、人口減少、少子高齢化により地域のチカラが弱まり、このままいけば、地域はどんどん衰退する、そうした危機感の中、ボトムアップ型の地域再生の仕組みを整えた実験的な取り組みが始まった。そんな神河町役場の奮闘に関わった体験を紹介する。

### 講義 09 プレゼンテーション手法・技術(応用編)

受講生 3 名 (チーム) にプレゼンテーションを行ってもらい、プレゼンテーション後は、自治体の長、地域住民、若者、反対派など各立場の聴き手になり切った受講生との間で質疑応答を行う。練習とはわかっている、いつしか真剣になってしまうのがミソである。

### 講義 10 地域資源の発見と活用

地域の発展を目指す時、まず考えるべきことは、どんな地域にしたいかということである。そこから、活用できそうな、または、活用すべきモノ・コトは、あるのか、ないのか、ない時はどうすべきか? ある時はどうすべきか? 一緒に考える。

### 講義 11 講義まとめ

地域発展の構図、地域発展への人々の“共働”と地域 P&C の必要性、地域 P&C の役割、地域づくり支援活動を行うにあたって必要な視点と心得、地域づくり計画のステージと思考プロセスなど、今期の講義の特に重要な箇所を振り返る。

## 講師プロフィール

**村田 武一郎 学長** 奈良フェニックス大学運営委員長・学長

- ◇1949年石川県生まれ。神戸大学工学部建築学科卒。一級建築士。大阪大学博士(工学)。民間研究機関を経て、2000年4月～2014年3月奈良県立大学教授、2014年4月～2018年3月帝塚山大学教授。専門は、地域計画、地域産業政策、沿岸域環境計画
- ◇関西文化学術研究都市、国際花と緑の博覧会、大阪湾ベイエリアの開発整備、大阪湾の環境保全・創造、阪神・淡路大震災からの復興などに関する計画、近畿各地域の振興計画、ストレス社会と心の健康づくりプロジェクトなどに従事
- ◇2000年からは、地域づくり人材(地域プランナー・コーディネータ)の育成、奈良県各地域における地域づくりの指導・支援、に注力している。
- ◇著書に、「インキュベーター企業創造の時代」(編著)、「ストレス社会と心の健康」(共編著)、「これからの安全都市づくりー阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて」(共編著)、「地域創造へのアプローチ」(共編著)、「海の世界学習ハンドブック子ども編」(共編著/国土交通省近畿地方整備局コミュニケーション型国土行政コンテスト特別賞受賞)、「新版 海城環境創造事典」(共監編著/日本沿岸域学会出版・文化賞受賞)、「地域の時代を創るー地域発展と“ひと”の役割」(編著)、「海の世界」(共監編著)、「奈良の将来ビジョンー県民からの129の提案」(共編著)、「なら工房街道」(共監修)、「地域プランナー・コーディネータ教科書」(共編著,OM環境計画研究所)、小説「地域はみんなで創るー地域はインキュベータ」(単著,奈良フェニックス大学HPにて公開)など
- ◇一般社団法人地域づくり支援機構理事長

**木村 衛 先生** 一般社団法人地域づくり支援機構 顧問

- ◇1942年12月奈良県生まれ。1965年3月千葉大学園芸学部卒業
- ◇1965年4月から奈良県に勤務し、以下の業務に従事  
農業試験場:イチゴの栽培技術の研究、新品種開発/農政課:農業構造改善事業、山村振興対策事業等補助事業の推進/各種の農業・農村振興計画の策定/明日香保存法にかかると農林業振興方策の検討/農業大学校:農業後継者の養成教育/中央卸売市場:卸売業者の指導・監督/農業振興課:農業振興行政の推進
- ◇2003年3月奈良県退職。2003年4月(財)明日香村地域振興公社常務理事に就任、明日香村の農業振興・地域活性化・“景観を守るボランティア”の育成等に尽力。2008年3月同公社常務理事退任
- ◇2008年5月から一般社団法人地域づくり支援機構副理事長。2017年8月から同機構顧問

**原田 弘之 先生** 大阪成蹊大学准教授

- ◇京都府宮津市生まれ。大阪大学大学院工学研究科(環境工学)修了。(株)地域計画建築研究所を経て、2022年4月から大阪成蹊大学准教授
- ◇おもに農業と観光の視点から地域活性化のための調査、計画策定、事業創出支援を行う。近年は、自治体の農業や観光ビジョン策定のほか、地域や特産品のブランド化、卸売市場や道の駅の活性化などが主要なテーマ。奈良県内では東吉野村や明日香村等がフィールド
- ◇技術士(農業部門・農村環境)。一般社団法人地域づくり支援機構「地域プランナー」登録。一般社団法人都市計画コンサルタント協会「認定都市プランナー(都市・地域経営)」登録
- ◇著書に、『これでわかる!着地型観光』(共著,学芸出版社)、『地域のチカラ』(共著,自治体研究社)、『経営の視点から考える「新しい観光学」』(共著,千倉書房)

**神 剛司 先生** ミュージアム・プランナー/合同会社大黒プランニング代表

- ◇1980年乃村工藝社入社以来、一貫して博物館の展示設計・施工を手がけてきた。2022年4月から合同会社大黒プランニング代表
- ◇展示づくりの実績紹介 菊池恵楓園歴史資料館 <https://www.nomlog.nomurakougei.co.jp/article/detail/173/>
- ◇行政と仕事を進めるにあたり、利用者不在であることに疑問を感じ、地域の考えを知るために、たまたま新聞で目にした地域づくり支援機構に入会
- ◇仕事の経験で、どんなに会心の提案でも、相手にその良さが伝わらなければ採用されることはなく、以来、プレゼンテーションの重要性を感じ、究めたいと努めてきた。
- ◇一般社団法人地域づくり支援機構理事、南山大学同窓会関西支部支部長
- ◇兵庫県立兵庫津ミュージアム(2022年11月開館) 展示ディレクター・学芸員

## 兼村 美徳 先生

- ◇1971年にファッション小売業界に就職し、1981年に流通業界のコンサルタント会社に就職。業界紙執筆と講義を中心にマーケティングとショッピングセンター運営指導に携わる。
- ◇1992年に独立し店運営指導・店長・販売員教育を行う。2018年まで会社として活動を続けた。
- ◇2006年に35年務めた東京を離れ、奈良県に移住。2010年の平城遷都1300年祭をきっかけに「奈良の魅力発信のモノづくり・ことづくり」にチャレンジをしている。

## 野口 隆 先生 奈良学園大学 特別客員教授

- ◇1966年京都大学経済学部卒。大手電機メーカー、流通業等を経て、1983年仲間と(株)関西総合研究所設立、同社代表取締役就任。2005～2015年奈良産業大学教授、2007～2015年奈良県立大学客員教授。2015年から奈良学園大学特別客員教授。専門は「地域経済論」「都市経済論」
- ◇地域づくり支援機構、まほろば研究センターの活動に参加。奈良の将来ビジョンをつくるフォーラムでは観光交流分科会座長を務めた。平群町ブランド認定委員会座長。大阪商工会議所ツーリズム委員会委員。平群町地方創成有識者会議副委員長。安堵町総合計画審議会座長、上北山村地方創生委員会委員。2012年まで日本計画行政学会関西支部副支部長
- ◇著書に、「共生社会論の展開」(共著/晃洋書房)(財)関西空港調査会「世界都市・関西の構図」(共著/白地社)、「五全総へーシンクタンクによる国づくり論」(共著/学芸出版社)、「奈良の観光を考える1」奈良産業大学研究所報、「信貴山世界へ飛ぶ」(毎日新聞ユニバーサロン)、「大阪におけるロボット産業の振興」(計画行政学会)、「関西の航空機部品産業の現状」(社会科学雑誌)など
- ◇山(低山)と飛行機を愛す。。現在、航空機部品企業のインタビュー調査実施中